

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2021年1月号

- ◇ 【調査レポート】米国における新型コロナの感染状況と移動制限 P. 1
- ◇ 【NYライフ】Walkway Over the Hudson State Historic Park P. 3
- ◇ 【米国マーケットレポート（12月）】 P. 4
- ◇ 【ニュース一覧】 P. 5

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank. co. jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



一 米国における新型コロナの感染状況と移動制限 一

米国では新型コロナの感染拡大が深刻化する一方、ワクチン接種が開始されるといった明るい材料も出てきました。今回は新型コロナ関連情報に加え、感染拡大防止を目的とする移動規制にも焦点をあててレポート致します。

1. 米国における新型コロナ関連情報

(1) 悪化する米国の感染状況

米ジョンズ・ホプキンス大学のデータによれば、米国での一日の新規感染者数は1月2日には30万人を超え、死者数は4,462人(1月12日)に上り、いずれも感染拡大が始まってから過去最多となりました。また、1月12日現在での米国における感染者数累計は約2,300万人(人口の約7.0%)、死者数累計は38万人を超え、世界最多となっています。そうしたなか、米国内各州では外出制限、飲食店の利用禁止、集会の人数制限等の規制強化を行っています。

(2) ワクチンの接種開始

開発が進められてきたワクチンですが、昨年12月11日に米食品医薬品局(FDA)は米ファイザー・独ビオンテック製のワクチンに対して緊急使用許可を出しました。次いで12月18日にはモデルナ製に対しても許可を出しました。米国におけるワクチン開始は12月14日、接種第一号はNY州にある病院の看護師でしたが、医療従事者のように優先順位の高い順から接種され、一般の国民へのワクチン接種が開始されるのは3~4月頃と言われています。

2. 米国外・NY州外からの移動規制

米国では連邦および州レベルで移動規制を設けています。連邦(米国疾病予防管理センター(以下CDC))およびNY州の規制は以下の通りとなっています。

(1) CDCによる全入国者に対する陰性証明義務化(発効:1月26日)

1月12日、米国に空路で入国を希望する渡航者全員に、新型コロナウイルス感染検査の陰性証明提示を義務付けると発表しました。新型コロナ変異種が確認された英国を対象に、昨年12月に発動した措置を日本を含む全世界に拡大するものです。

米国への入国希望者は、出発前3日以内に感染検査を受け、航空会社に陰性証明または感染後に完治した証明文書を提示しなければなりません。提示されない場合、航空会社は飛行機に搭乗させることはできません。

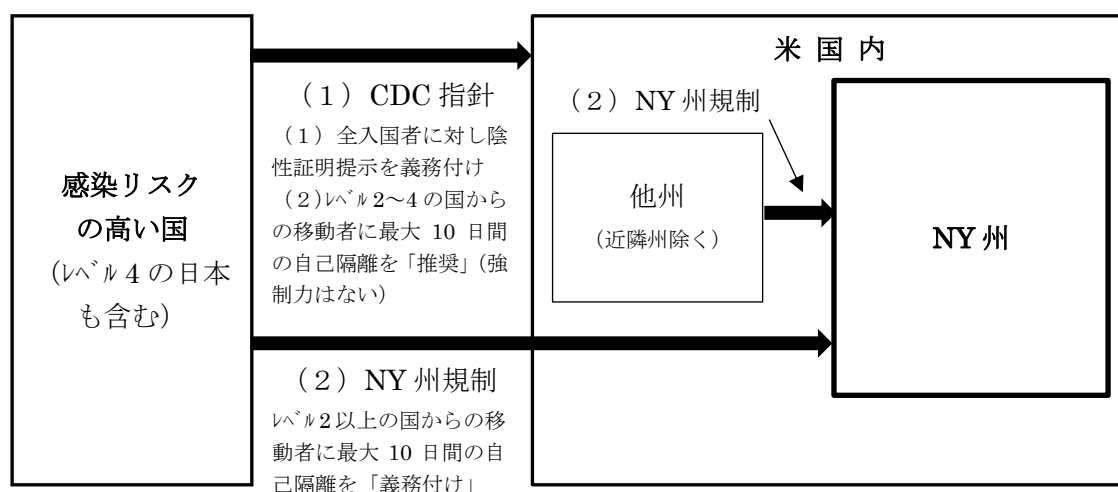
(2) CDCによる自主隔離期間についての指針

昨年12月2日、CDCは新型コロナウイルス感染症に関する自主隔離期間の指針について、14日間から10日間に短縮しました。ただし、CDCの指針には強制力がなく、また、同指針では「各州等地方自治体の指示や規定」に従うこととされています。

(3) NY州による移動規制

昨年12月29日、米国内の他州からNY州への移動について、以下の通り新しい規則が適用されています。ただし、NY州の隣接州（ニュージャージー、コネチカット、ペンシルベニア、バーモント、マサチューセッツの各州）との往来は対象外です。

- (a) NY州以外の州に24時間以上滞在した者（NY州在住者・国際線利用者(CDCの旅行健康情報においてレベル2以上の国)を含む）
- 以下の規則に従った場合、NY州到着後の10日間の自主隔離が短縮される。以下の2つの検査とともに陰性であることが判明した時点で自主隔離が終了する。
- ・NY州への移動前3日以内に新型コロナウイルスの検査を受けて陰性であること。
 - ・NYに到着後は3日間の自主隔離をすること（NY州に到着した際にトラベラー・ヘルス・フォームを提出）。
 - ・到着後4日目に再度検査を受けて陰性が確認されること。
- (b) NY州以外の州に24時間以内の滞在をした者（同上）
- ・NY州に移動する前に新型コロナウイルスの検査を受ける必要はない。また、NY州到着後の自主隔離も不要。
 - ・NY州に到着した際にトラベラー・ヘルス・フォームを提出し、到着後4日目に新型コロナウイルスの検査を受け陰性であることを確認する。



3. おわりに

感染拡大を受け、NY市内では感染の有無の検査を受けるべく、医療施設等の入口前に人々が長蛇の列を成す光景がみられます。

ワクチン接種が開始されたとはいえ、米国民の大半に接種が行き渡るには少なくとも半年程度は要すると言われており、コロナ以前のように人々が自由に移動できるようになるには、なお相当の時間がかかりそうです。

【ニューヨーク駐在員事務所 飯塚 藤郎】

— Walkway Over the Hudson State Historic Park —

マンハッタンから 2 時間程北上したハドソン川沿いの町、Poughkeepsie と対岸の Highland に架かる Walkway Over the Hudson State Historic Park は、昔の橋を利用して造られた公園です。水面から約 64 メートル、全長約 2 キロの橋は徒歩、自転車で渡ることができ、360° 広大な景色を楽しむことができます。

この橋は元々、19 世紀後半に Poughkeepsie-Highland 鉄道橋と呼ばれる当時唯一のハドソン川横断橋として建設されました。1989 年に開通した当時は世界で一番長い橋で、広範囲に及ぶ全国的な鉄道網の一部としてニューヨークと他の地域を結び、多くの貨物と乗客を運びました。しかし、20 世紀に入ると製造業の衰退や高速道路の発展、トラック輸送の増加に伴い利用が減少し、1974 年に橋で発生した火災後に修理されることなく放棄され、個人所有者へ売却されました。

1992 年に非営利団体が橋を保存する活動を開始し、多くの寄付によって橋の修理が行われました。2009 年に州立歴史公園としてオープンした後も、エレベーターやビジターセンターの建設等の整備が進んでいます。ハイキングトレイルの一部にもなっており、現在では観光客や散歩、ジョギングをする人等、年間 60 万人以上が訪れる人気スポットです。

片道 30 分程の橋の上での散歩はとても開放感があり、歩くごとに少しずつ変化する景色を楽しむことができました。ただ、陽射しや風を遮るものが何もないため、夏は陽射しと暑さ対策、秋頃からは風と寒さ対策が必須です。隣にある Mid-Hudson Bridge を巡る約 7 キロのトレイルでは、周辺の自然公園や歴史地区の観光もできます。時間と体力次第ですがいつか挑戦したいと思います。



<アクセス>

車：マンハッタンから約 2 時間

Highland Entrance: 87 Haviland Road, Highland, NY 12528 (ハドソン川西側)

Poughkeepsie Entrance: 61 Parker Avenue, Poughkeepsie, NY 12601 (ハドソン川東側)

電車：Grand Central 駅から Hudson Line で Poughkeepsie 駅下車。徒歩約 20 分

【ニューヨーク駐在員事務所 菱沼 いずみ】

米国マーケットレポート（12月）

○マーケット情報

市場	指標	12月末	11月末	月間騰落額	月間騰落率
株式	NYダウ	30,606.48	29,638.64	+967.84	+3.3%
	ナスダック	12,888.28	12,198.74	+689.54	+5.7%
債券	10年債利回り	0.91	0.84	+0.07	+8.9%
為替	ドル/円	103.25	104.31	▲1.06	▲1.0%
	ユーロ/ドル	1.22	1.19	+0.03	+2.4%
商品	原油先物(WTI)	48.52	45.34	+3.18	+7.0%
	金先物	1,895.10	1,775.70	+119.40	+6.7%

出所: Bloomberg

【株式市場】ワクチン接種開始等を好感して大きく上昇

ダウ、ナスダックとも大幅上昇。米英等における新型コロナワクチン使用許可に伴うワクチン接種開始への期待感や、中旬に開催された FOMC での資産買入ペース維持決定等が好感された。年末近くには英国と EU との間での通商合意、米国の経済対策法案成立等も株価上昇を後押しした。

【債券市場】米国 10 年国債利回りは上昇（価格は下落）

長期金利は、月初に新型コロナワクチンへの期待や米国における追加経済対策を巡る与野党協議の進展期待等から大きく上昇したが、その後は感染再拡大への懸念や米国債の需給悪化懸念等もあり、月中はほぼ 0.90～0.95%のレンジ内で推移した。

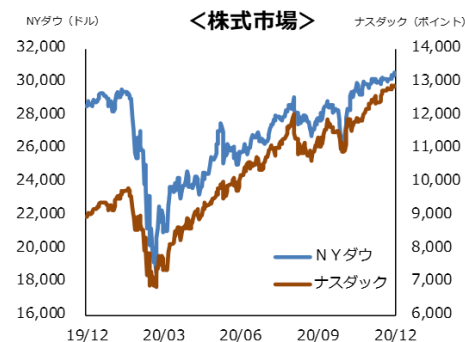
【為替市場】ドルは 103 円台まで下落

米ドルは対円で下落。中旬に開催された FOMC にて FRB がゼロ金利と量的緩和策を長期間継続することを示したことから、ドル安が進行した。その後は一旦ドル高に振れたものの、年末にかけては追加経済対策の成立等で再度下落に転じた。

【商品市場】原油先物、金先物とも上昇

原油先物は上昇。OPEC プラスが協調減産の規模縮小合意による供給増への懸念等から、上旬は 46 ドル前後で推移したが、ワクチン接種開始をきっかけとする経済活動正常化への期待感等から、下旬にかけて上昇した。

○米国市場の概況



ニュース一覧

(2020年12月のニュースを抜粋、日付は Bloomberg 掲載日であり、あくまで参考となります)

●経済（発表順）

- ・ISM 製造業景況指数:11月は57.5に低下-前月の59.3から1.8ポイント低下(12/1)
- ・貿易収支:10月は▲631億ドルと赤字拡大(前月は▲621億ドルに修正)(12/4)
- ・非農業部門雇用者数:11月は前月比+24万5,000人(予想+46万人)(12/4)
- ・失業率:11月は6.7%(予想通り)-前月は6.9%(12/4)
- ・コアCPI(除食料・エネ):11月は前月比+0.2%(予想+0.1%)(12/10)
- ・鉱工業生産指数:11月は前年比+0.4%(予想+0.3%)(12/15)
- ・小売売上高:11月は前月比▲1.1%(予想▲0.3%)-10月も▲0.1%に下方修正(12/16)
- ・住宅着工件数:11月は154.7万戸(予想153.5万戸)-9ヶ月ぶりの高水準(12/17)
- ・中古住宅販売件数:11月は前月比2.5%減の669万戸(予想670万戸)(12/22)
- ・コンファレンスボード消費者信頼感指数:12月は88.6に低下(予想97.0)(12/22)
- ・国内総生産(GDP):7-9月確定値は前期比年率33.4%増加(予想は33.1%増)(12/22)

●金融政策（米国・欧州）

- ・パウエル FRB 議長:「(ワクチン進展も)当面は時期や生産・供給、異なる集団での効果などを巡り、大きな難題と不確実性が残る」(12/1)
- ・エバンス シカゴ連銀総裁:「少なくともあと3年は超低金利維持の見通し」(12/1)
- ・ハーカー フィラデルフィア連銀総裁:「FRB 融資プログラムは来年以降も利用可能であるべきだ」(12/2)
- ・(欧州)ラガルド ECB 総裁:「ウイルス感染の第2波で4Qは大幅な経済縮小となる」「インフレ率は2021年初めまでマイナスが続く」「(パンデミック緊急購入プログラムの拡大額について)望ましい金融環境が維持できているならば、全額使う必要はない」(12/10)
- ・パウエル FRB 議長:「債券購入の縮小は事前に余裕を持って警告する」「来年以降、ワクチン効果で力強い経済に」「インフレ押し上げは容易ではないだろう」(12/16)

●政治（米国）

- ・バー司法長官:「異なる選挙結果をもたらしていた可能性があるような規模での不正は、これまでのところ見つかっていない」(12/1)
- ・ファウチ国立アレルギー感染症研究所長:「(新型コロナウイルスについて)クリスマス休暇は長く、感謝祭の際に見られた状況よりもさらに厳しいものになる可能性がある」(12/7)
- ・マコネル上院院内総務:「選挙人団の決定が下った。よって本日、バイデン次期大統領に祝意を表したい」(12/15)
- ・バー司法長官:「ハンター氏(バイデン次期大統領の息子)の調査を監督する特別検察官を指名する理由は見当たらず、退任前にそうする計画はない」(12/21)
- ・ペロシ下院議長:「(トランプ大統領の国防権限法案への拒否権行使について)議会超党派の意思を台無しにする驚くほど無謀な行為だ」(12/24)
- ・トランプ大統領:「共和党は給付額の引き上げを一刻も早く通過させるべきだ」(12/29)

(出所:各種新聞、Bloomberg 等)